

# 令和元年度 施策評価シート

## 1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～				
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー				
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト				
主管課		都市政策部 上下水道課			評価責任者	櫻井 進一
関連課		環境課			評価日	令和2年7月3日
目標		快適な生活環境のために浸水被害を防止する雨水対策を進めるとともに、生活排水処理の促進を図ります。また、既存下水道施設についても、適切な維持管理や老朽化した施設の更新を行います。				
施策目標の実現に向けた取組		<p>(1) 雨水対策の推進及び排水施設の維持管理                      ○都市型浸水被害を防止するため、排水施設の整備を進め、既存施設についても適切な維持管理や長寿命化修繕計画に基づき修繕を行います。                      ○県で進めている河川の洪水防止のための雨水浸透マス設置事業について、説明会の開催などに協力します。</p> <p>(2) 生活排水処理の促進                      ○市街化調整区域での排水処理を促進するため、下水道管の整備とともに、合併処理浄化槽への転換などの手法を検討します。また、市街化調整区域の整備計画及び受益者負担金の明確化を図るとともに、受益者の理解を得ながら進めていきます。</p> <p>(3) 下水道事業の経営基盤の強化                      ○長期的な財政計画を策定し安定的に事業を進めていきます。</p>				

## 2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	雨水浸透施設等の設置					
		説明	浸水被害を縮小するため、雨水整備時期が長期間要する地区を優先に浸透施設等を設置する。					
		単位	箇所					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	50	51	52	52	52	53
		実績値	49	50				
	指標2	指標名						
		説明						
		単位						
	指標3	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標4	指標名						
		説明						
		単位						
	指標5	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	679,501	749,441	742,353			
	人件費	72,502	78,244	75,708			
収入	特定財源	286,879	344,587	295,086			
	一般財源	465,124	483,098	522,975			

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	貯留浸透施設設置数	前年度からの繰越事業となっていた西鶴ヶ岡地区における雨水貯留浸透施設が完成となった。	西鶴ヶ岡地区においては4基目の貯留浸透施設が完成となり、累計で約1200㎡の雨水貯留が可能となることから、道路等への雨水流出抑制がなされ、浸水被害の軽減が図られる。	雨水関連事業
取組②				
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	これまでに設置した貯留浸透施設により浸水被害は一定の軽減が図られているが、年数の経過による老朽化に直面していることから、適切な維持管理が必要である。また、近年の異常気象による集中豪雨や台風に伴う大雨は、従来想定していた降雨量を大きく上回ることがあるため、浸水被害を完全に防止することが困難となっている現状と課題がある。 このことから、今後は施設整備等ハード対策及び雨水監視体制の強化等ソフト対策の充実による浸水対策や防災対策の促進を図るとともに、国や県、近隣自治体と連携した内水浸水対策を行なうことにより広域的に都市型浸水被害の防止を図っていく必要がある。
おおむね順調	
行政資源の活用	
適切	
取組の有効性	
有効	
施策の効果	
効果が得られている	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名	江川流域都市下水路（川越江川）維持管理負担金		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目	一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課	都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利	
事務事業期間		評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等	都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、江川流域都市下水路の設置及び管理並びに住民の利用に関する協定書			
事務事業の内容	事務事業の目的	江川流域都市下水路の排水区域内における下水道接続以外の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を都市下水路に放流することを目的とする。		
	事務事業の経緯	江川流域都市下水路の排水区域内の住民が、当該区域内の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を江川流域都市下水路に放流することができるよう、川越市と維持管理に要する費用について負担割合の協定書を取り交わし、効率的な維持管理を行っている。（ふじみ野市：50.7%、川越市：49.3%の負担割合）		
	事務事業の概要	管理者の川越市が支出する維持管理経費（保守点検等）に対して、負担金を支払うものである。		
	令和元年度の主な取組	管理者の川越市が実施した草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の維持管理及び平成29年台風第21号に係る復旧費用に対する負担金を支出した。		

## 2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10
		人件費	810	798
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		810	798	798
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	0	0	0
	需用費	0	0	0
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	60,928	30,945	58,611
	扶助費	0	0	0
その他事業費	0	0	0	
支出合計		61,738	31,743	59,409
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	24,400	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		37,338	31,743	59,409
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		327	277	511

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	負担金額		
	説明	江川流域都市下水路の維持管理（除草、保守点検等）事業及び平成29年台風第21号に係る復旧費用に対する負担金をふじみ野市の負担割合に応じて事務事業費のとおり支払を行う。		
活動	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>平成29年台風第21号の影響により崩壊した都市下水路の災害復旧事業及び隣接する市道第H-36号線の復旧事業が令和元年5月に完了し、平成29年台風第21号にかかわる災害復旧事業は完了した。事業完了に伴いふじみ野市の負担金額も確定し、川越市からの請求に基づき災害復旧負担金の支出事務についても令和元年8月に完了している。</p> <p>管理者の川越市が実施した草刈清掃業務委託、樋門保守点検委託などの通常の維持管理に関する負担金の支出事務については、川越市からの請求に基づき令和2年3月に行う。</p> <p>令和元年台風19号において、江川流域都市下水路に隣接する元福岡地区で浸水被害が発生したものの、災害復旧事業において実施したフェンス基礎のかさ上げを行ったこと等により、浸水被害の軽減に一定の効果があったと考える。</p>
------------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江川流域都市下水路の適正な維持管理を図るために必要な負担金であるため、今後も必要である。また、さらなる浸水被害の軽減に資するハード及びソフト対策を組み合わせ、迅速かつ経済的な対策を国、県及び川越市と協議連携のうえ進めていく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名	下水道事業管理等事務			前年度の方向性
				継続
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目				
所管部課	都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利	
事務事業期間		評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等	下水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例、ふじみ野市下水道条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	生活環境の改善、雨水の排除及び公共用水域の水質保全を図り、快適で安全な市民生活を確保するため、計画的・効率的な事業経営に取り組むことを目的とする。 また、下水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる下水道使用料を適正に収納する。		
	事務事業の経緯	下水道事業は、平成28年度から水道事業と同様に地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する必要がある。		
	事務事業の概要	目的達成のため、的確な下水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正・適法な会計処理のもと経営の安定を図る。 なお、下水道使用料の賦課徴収に関する業務については、水道事業に委託している。		
	平成31年度の主な取組	ふじみ野市下水道事業の経営基盤の強化及び健全化を図るために平成29年度に策定した「ふじみ野市下水道事業経営戦略」に基づき、引き続き事業を実施した。 事務事業の目的達成のため、下水道事業の予算編成、決算書作成、執行管理を実施し、適正・適法な会計処理のもと経営の安定を図った。		

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.30	3.80	3.80
		人件費	26,717	31,989	30,317
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
	人件費計	26,717	31,989	30,317	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	141	118	0	
	委託料	39	159	0	
	使用料及び賃借料	966	1,091	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	92,222	93,643	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	1,291	1,366	0	
	支出合計	121,376	128,366	30,317	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	121,376	128,366	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	0	0	30,317	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	261	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	下水道使用料不納欠損額		
	説明	下水道事業の財源を確保し、受益と負担の公平性を確保する必要があるため。		
活動	単位	円		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	1,200,000	1,100,000	1,000,000
	実績値	1,013,915	948,428	
指標 2	指標名	下水道使用料徴収率		
	説明	下水道事業の財源を確保し、受益と負担の公平性を確保する必要があるため。		
活動	単位	%		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	99.90	99.90	99.90
	実績値	99.90	99.91	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>事務事業の目的達成のため、下水道事業の予算編成、決算書作成、執行管理を実施し、適正・適法な会計処理のもと経営の安定を図った。</p> <p>令和元年第2回ふじみ野市議会定例会において「ふじみ野市下水道条例及びふじみ野市水道事業給水条例の一部を改正する条例」を提案し、消費税率の引き上げ相当額について、令和元年10月から下水道使用料の改定を実施するための議決を得た。</p> <p>平成30年度の下水道事業決算における各指標に基づきPDCAサイクルを用いた進行管理及び他事業体の平均との比較等も行い令和2年度予算編成事務の際には参考とした。</p> <p>下水道の普及啓発活動の一環として、マンホールカード及びコースターを作成し、配布を行った。また、公益財団法人埼玉県下水道公社が実施する移動下水道教室に協力し、市内11小学校の4年生を対象に市下水道事業の普及啓発を行った。</p>
------------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>生活環境の改善、雨水の排除、公共用水域の水質保全を目的に下水道事業の運営を行っている。下水道事業は、平成28年度から水道事業と同様に地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する必要がある。平成29年度に策定した下水道事業経営戦略に基づき、今後も下水道事業の持続可能な経営を目指していく。</p>
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（污水）		前年度の方向性 統合	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目					
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳	
事務事業期間			評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等		下水道法、ふじみ野市下水道条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良好な機能を維持する。			
	事務事業の経緯	整備された公共下水道施設を良好に保つため、管渠等の維持管理や維持補修を行っている。			
	事務事業の概要	①下水道施設の日常的な管理運用と計画的な保守点検を行い機能を維持する。 ②水質検査を計画的に実施し、利用者に対し適切な排水指導を行う。 ③埼玉県荒川右岸流域下水道の新河岸川水循環センターにて汚水を高度処理するための負担金の支払い。			
	平成31年度の主な取組	①平成30年度に実施した緊急輸送道路内の下水道管路耐震補強実施設計に伴い、令和元年度では社会資本整備総合交付金により改築工事を実施するとともに、管路施設等の維持管理費の平準化を図るためにストックマネジメント実施方針を策定に取り組んだ。 ②特定施設や除害施設に対する水質検査を実施し、改善が必要な事業所等に対し排水指導を行なう。 ③公共下水道の不明水削減を図り負担金の低減を実現するため、県が行なう不明水対策調査を推進する。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.50	1.50	
		人件費	12,144	12,627	
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.20	
		人件費	737	658	
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
	人件費	0	0		
人件費計		12,881	13,285	12,736	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	14,657	15,719	0	
	委託料	21,892	42,867	0	
	使用料及び賃借料	247	248	0	
	工事請負費	21,760	5,489	0	
	負担金、補助及び交付金	19	22	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	1,884	2,801	0	
支出合計		73,340	80,431	12,736	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	1,944	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	71,178	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	217	0	0
一般財源		1	80,431	12,736	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	703	110	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	有収率		
	説明	ゲリラ豪雨等による雨水の流入、老朽化した下水道管に不明水の流入により、排水量(不明水)が増加するため。		
活動	単位	%		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	84.00	84.00	84.50
	実績値	83.60	80.70	
指標	指標名	緊急輸送道路内管路耐震補強事業		
	説明	緊急輸送道路内の下水道管路延長約6.7kmのうち、耐震補強判定延長約36mの管路耐震補強工事を行った。		
活動	単位	m		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	34	34	0
	実績値	34	36	
指標	指標名	下水道普及率		
	説明	行政区域内の公共下水道(汚水)の普及を促進するため、未整備区域の解消を図る必要がある。		
活動	単位	%		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	93	94	94
	実績値	93	94	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【ストックマネジメント計画】</p> <p>平成29年度までに実施した元福岡地区、水宮地区、苗間地区の長寿命化計画の成果も活用し、令和元年度社会資本整備総合交付金により市内全域における管路延長約284km、マンホール本体及び蓋、取付管のストックマネジメント実施方針を策定したことにより、令和2年度社会資本整備総合交付金による計画・調査業務の補助要件を整備した。</p> <p>【緊急輸送道路内の管路耐震補強工事】</p> <p>災害時の緊急輸送道路に指定されている川崎地内の養老橋付近の県道内において、管路耐震診断で地震等による機能不全の判定があったことから、令和元年度社会資本整備総合交付金により延長約36mの更生工事及び管口6箇所の可とう継手化を実施したことにより、不明水対策の削減を図った。</p> <p>【未普及地区の対策】</p> <p>令和元年11月14日及び18日に、市街化調整区域内の公共下水道(汚水)未整備地区を対象とした説明会を開催し、公共下水道の整備方針や受益者負担金算定方法、及び負担単価(案)を説明するとともに、個々の質疑に回答した。また、アンケート集計を行ったことにより関係者の意向を確認することができた。</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	公共下水道施設の日常の安全点検を確実にを行うことにより施設の損傷を早期に発見し改善するとともに、引き続き県や関係市町と協力して不明水対策調査に取り組む。また、管路等施設のストックマネジメント実施方針の策定により、維持管理業務の効率化を図るとともに、維持コストの平準化により経済的な維持管理業務に資する。さらに、令和2年度からストックマネジメント計画調査を開始しながら、緊急度の高い施設を優先に必要なに応じて改築又は更新を実施することにより、安全・安心な下水道施設を実現する。
中長期的方向性	
拡充	市街化調整区域の未普及対策について、整備優先地区の選定を確定し、都市計画決定や事業計画に向けた事務を進める必要がある。



1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（雨水）	前年度の方向性 統合	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		～令和25年度	評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法		
事務事業の内容	事務事業の目的	浸水被害の軽減を図るため、雨水浸透貯留施設等の整備を促進するとともに、適正な施設の維持管理を行なう。		
	事務事業の経緯	平成22年度から平成27年度まで福岡江川排水区の雨水幹線を整備するとともに、平成27年度から平成29年度までに大井武蔵野地区に2基の雨水調整池を設置した。令和元年度には亀久保大野原地内に3基目の雨水調整池を整備するため令和元年度に事業用地の全部を取得するとともに工事着工したが、同年東日本台風に伴い令和2年度へ繰越した。		
	事務事業の概要	台風や集中豪雨により雨水浸水実績のある地区を優先として、大井武蔵野地区や亀久保大野原地内に雨水浸透貯留施設の整備を促進する。また、富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理を定期的に行う。		
	平成31年度の主な取組	①令和元年度に亀久保大野原地内に3基目の調整池を整備するため、事業予定地の不動産鑑定評価に従い関係土地所有者から事業用地を全部取得し、令和元年9月に調整池③築造工事を発注した。しかしながら、令和元年東日本台風の影響により建設機械及び労務の確保が困難となったことから、国や県と協議し建設改良繰越した。 ②富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理として除草等を定期的に行なっている。また、同市との覚書に基づき砂川堀雨水幹線(流域)との合流点付近に、同市がバランスゲートを設置するため工事発注をしたが建設改良繰越している。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.30	0.30	0.50
		人件費	2,429	2,526	4,048
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		2,429	2,526	4,048	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	485	619	582	
	委託料	23,250	6,475	19,984	
	使用料及び賃借料	0	0	11	
	工事請負費	1,849	73,025	135,594	
	負担金、補助及び交付金	0	0	58,300	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	9,750	101,026	6,053	
支出合計		37,763	183,671	224,572	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	3,078	50,122	89,000
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	28,442	131,125	130,848
		分担金・負担金	6,243	2,424	4,724
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	雨水浸透貯留施設整備事業		
	説明	令和元年度社会資本整備総合交付金により調整池③築造工事を行うことにより、亀久保大野原地内の浸水軽減を促進する。令和元年東日本台風の影響に伴い労務者確保等に支障が出たため建設改良繰越となった。		
活動	単位	箇所		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	1	1	0
	実績値	1	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【調整池整備事業】 大井武蔵野地区に整備した調整池①、調整池②の設置に続き、亀久保大野原地区で令和元年度に3基目の調整池③（約10,800立方メートル）を整備したことにより、合計約30,000立方メートルの雨水貯留浸透量の確保ができ、亀久保大野原地内の浸水軽減を図れるものとなる。</p> <p>【内容・効果】 3基目となる調整池③が完成することにより、大井武蔵野地区および亀久保大野原地区で合計約30,000立方メートルの雨水浸透貯留量を確保することができるため、周辺地区の浸水軽減の促進のほか、関連流域の浸水被害が軽減できる。しかしながら、令和元年東日本台風の影響により、建設機械及び労務の確保が困難な状況となったため年度内での工事完成が不可能となったことから、国や県と協議し令和2年度へ建設改良繰越することとなった。</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	<p>【亀久保大野原地区雨水浸透施設設置事業】 ・令和元年9月築造工事発注 ※令和元年東日本台風の影響により、建設機械及び労務の確保が困難となり、年度内完成が極めて難しい状況となったため、建設改良繰越を予定する。</p>
中長期的方向性	<p>【雨水幹線施設等の老朽化対策】 ・汚水公共下水道と同様に国のストックマネジメント支援制度を受けて計画的に施設の点検、改築を実施するよう検討する。そのため、令和2年度にストックマネジメント簡易版方針を策定する。</p>
拡充	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡江川幹線事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目					
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳	
事務事業期間			評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等					
下水道法、ふじみ野市下水道条例					
事務事業の内容	事務事業の目的	福岡江川幹線の機能保持及び管理の適正化を図ることを目的としている。			
	事務事業の経緯	福岡江川幹線の適切かつ効率的な維持管理を行い、雨水排除のための下水道機能を維持している。			
	事務事業の概要	福岡江川幹線の定期的な清掃及び修繕等を計画的に行っている。			
	平成31年度の主な取組	福岡江川幹線の定期的な維持管理として沿線の除草等を行うとともに、出水期において樋管付近に臨時用の排水ポンプを設置し台風や集中豪雨に備えた。また、函体底部に堆積した汚泥浚渫を行い適正な流下能力の確保を図った。さらに、谷田橋上流部の幹線左岸においてフェンス基礎ブロックの嵩上げを延長約65m実施した。なお、令和3年度完成予定であった同計画を1年前倒しし令和2年度に完成予定とする事務調整を行った。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.80	0.80
		人件費	6,477	6,735
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.20
		人件費	737	658
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
人件費計		7,214	7,393	5,556
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	0	0	0
	需用費	219	252	0
	委託料	3,671	3,668	0
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	1,066	3,497	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
	その他事業費	0	0	0
支出合計		12,170	14,810	5,556
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	12,144	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	25	0
一般財源		1	14,810	5,556
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	129	48

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	浸水被害軽減策としての浚渫		
	説明	台風等による集中豪雨時の、福岡江川幹線内の滞留量を高め流域の浸水被害を防止するため。令和元年度は、大雨等による影響により、福岡江川幹線の水位が高い状況が継続しているために安全を考慮し、120mの区間のみ実施した。		
活動	単位	m		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	750	750	750
	実績値	750	120	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【浸水被害件数の縮小】</p> <p>新河岸川と福岡江川幹線の合流部付近において、出水期間に限定して臨時用の排水ポンプ（1分当たり4立方メートル排出）を2基設置したことで台風や集中豪雨時の際の同幹線の排水機能を確保した。また、同幹線に堆積した汚泥を浚渫したことにより、同幹線の流下能力を保持するとともに、水位上昇に伴う付近住宅の浸水被害の軽減を図った。さらに、同幹線の溢水を防止するため谷田橋上流部の左岸側のフェンス基礎ブロックを約70cm嵩上げる工事を施工延長約65m実施した。</p>
--------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	<p>【排水ポンプ設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度 出水期間に臨時用の排水ポンプ2基を設置する。</li> </ul> <p>【維持管理業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度 国道254号バイパス～上流約750mを汚泥浚渫する。</li> </ul>
中長期的方向性	<p>【谷田橋から上流の溢水対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度から2年間で総施工延長約800mのフェンス基礎ブロック嵩上げ工事を実施し、江川から水宮地内への溢水抑制を図る。</li> </ul>
拡充	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業負担金		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 03公共下水道費			
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		平成28年度～		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		地方公営企業法、地方公営企業繰出金について（総務省通知）			
事務事業の内容	事務事業の目的	地方公営企業は、経費の負担の原則により、その性質上地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費（雨水処理に要する経費等）については、一般会計等において負担するとされており、対象経費に対する負担金を支出することで、負担区分の適正化を図っている。			
	事務事業の経緯	下水道事業においては、汚水処理と雨水処理の両方があり、雨水の排除や公共用水域の水質保全などは、雨水公費の原則により一般会計において負担するものとされている。下水道事業への負担金は、総務省の繰出基準に基づき適切に算定している。			
	事務事業の概要	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正に維持管理しなければならない。下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出している。			
	令和元年度の主な取組	下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計へ総務省の繰出基準に基づき適切に積算されたの負担金（繰出金）を支出した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	810	798	798
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		810	798	798	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	268,344	267,184	332,730	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	0	0	0	
支出合計		269,154	267,982	333,528	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		269,154	267,982	333,528	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		2,356	2,343	2,870	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般会計繰出金		
	説明	下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計へ総務省の繰出基準に基づき適切に積算されたの負担金（繰出金）を事業費のとおり支出する。		
活動	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計へ総務省の繰出基準に基づき適切に積算されたの負担金（繰出金）を支出した。
------------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正に維持管理しなければならない。下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、今後も下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出していく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		排水施設事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間				評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		下水道法、ふじみ野市下水道条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良好な機能を維持する。			
	事務事業の経緯	一般下水道（雑排水管）の維持管理を行うことにより、公共用水域の水質保全を保持し浸水被害の軽減を図る。			
	事務事業の概要	排水施設等の定期的な清掃及び点検等を計画的に行う。			
	令和元年度の主な取組	富士見市との協定に基づき実施している旧砂川堀改修工事については、これまで1年間の施工延長を2mとしてきたが、水災害の危険を早期に軽減する観点から、平成30年度に富士見市と協議を行ない、令和元年度から1年間に10mの施工延長を確保することで、早期に所期の目的を達成する取り組みを行っている。 また、亀久保大野原地区の排水対策として令和元年度に一般管を設置するため地元説明会を開催し、一般管布設工事を実施した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	1.10
		人件費	8,906	8,776
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.20
		人件費	737	769
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		9,643	9,545	9,545
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	0	0	0
	需用費	7,146	3,512	8,496
	委託料	18,183	10,294	5,340
	使用料及び賃借料	103	103	104
	工事請負費	3,976	32,492	22,550
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
	その他事業費	2,654	2,911	2,988
支出合計		41,703	58,856	49,023
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	1,301	4,850
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		40,402	54,006	43,909
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		354	472	378

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般下水道管の洗浄		
	説明	雨水や雑排水の滞留を防止し、円滑に放流するため。		
活動	単位	m		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	350	350	350
	実績値	350	407	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【旧砂川堀維持管理負担金】 旧砂川堀について富士見市との協定に基づき定期的な維持管理や水路幅の拡幅を目的とする改修工事を実施したことにより、砂川堀周辺地区の浸水被害の軽減を図った。また、令和元年度から施工延長を5倍延長し約10m整備したことにより、早期の効果発現に向けて工事を進めた。このことに伴い、富士見市には4,850千円の負担金を請求した。</p> <p>【雨水排水路維持管理】 雨水排水路について除草等の定期的な維持管理を実施したことにより、適正な施設運営と円滑な流下能力を維持した。</p> <p>【亀久保企業団地一般下水道管布設工事】 亀久保企業団地付近において一般下水道管が未整備であることから、市道内に延長約440m、管径φ200の一般下水道管布設工事を実施したことにより、亀久保大野原地内の排水環境の向上と、進出企業の排水先を確保した。</p>
------------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>【浸水被害の件数】 令和元年東日本台風では旧砂川堀付近の浸水被害が心配されたが、特段災害には繋がらなかった。</p> <p>【旧砂川堀維持管理負担金】 旧砂川堀改修工事は平成30年度まで1年間に延長2mずつ工事を行なっていたが、浸水軽減を早期に図る必要があるため、1年間当りの施工延長約10mに延ばす計画について富士見市と協議し、令和元年度から1年間に延長10mずつ工事を行なう計画とした。</p>
中長期的方向性	<p>【亀久保企業団地周辺の排水対策】 令和元年9月に開催した八丁分館での工事説明会において要望があった分館付近の浸水状況等を注視しながら、令和元年度に整備した亀久保大野原地内一般下水道管への接続の必要性の有無を検討する。</p>
継続	



1. 事務事業の概要

事務事業名		雨水関連事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		～令和25年	評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		下水道法		
事務事業の内容	事務事業の目的	雨水の排除に必要な雨水浸透施設の設置、及び機能保持に必要な清掃・点検等を行う。		
	事務事業の経緯	大雨による洪水や冠水被害を防ぐために、都市型水害対策として、遊水池や雨水浸透施設などの整備を進めるとともに、開発行為により整備される宅地・道路に地下浸透施設の設置に対する指導を行っている。		
	事務事業の概要	浸水被害が発生している地区に雨水浸透施設等の設置を行う。併せて、雨水浸透施設の清掃・点検等を定期的に行う。		
	令和元年度の主な取組	西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事については平成30年度の工事完成を目指したが、他企業が所有する工事支障物件の移設に相当の期間を要したため、翌年度に繰越し令和元年6月に工事完成となった。一方、地域住民との関係では円滑な工事が遂行できるよう入念な意思疎通を繰り返すことができ、相互の協力体制を確保するとともに、関連流域として福岡江川幹線への雨水流入軽減に取り組んだ。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.30
		人件費	10,525	10,372
	再任用職員	従事人数(人)	0.40	0.40
		人件費	1,473	1,538
	会計年度任用職員	従事人数(人)	1.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		11,998	11,910	11,910
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	1,775	0	0
	需用費	1,521	1,777	3,163
	委託料	14,350	18,483	17,698
	使用料及び賃借料	2,316	2,819	3,511
	工事請負費	102,403	26,768	66,532
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費	396	69	106	
支出合計		134,759	61,826	102,920
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	16,500	27,700
		基金	31	0
		その他	0	0
一般財源		118,228	34,126	37,520
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		1,035	298	323

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	雨水浸透施設等の設置		
	説明	浸水被害を縮小するため、雨水整備時期が長期間要する地区を優先に浸透施設等を設置します。		
活動	単位	基		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	50	51	52
	実績値	49	50	
指標 2	指標名	浸透施設等維持管理		
	説明	ゲリラ豪雨等による浸水被害を縮小するため、浸透施設等の機能を安定的に維持します。		
活動	単位	基		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	3	12	12
	実績値	7	15	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事】          緑ヶ丘地内の雨水浸水被害を軽減するため西鶴ヶ岡一丁目に4基目となる雨水貯留浸透槽（浸透貯留量約300立方メートル）を設置したことで、浸水被害が軽減した。</p> <p>【雨水浸透施設清掃等業務】          雨水浸透井戸や遊水池等の15箇所の雨水関連施設について除草や浚渫を行ったことにより、効果的な機能の確保を保持した。</p> <p>【道路舗装本復旧工事】          令和30年度繰越工事で実施した西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事の完成に伴い、舗装仮復旧した市道の本復旧工事を実施したことにより、道路の機能回復を図った。</p>
------------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	<p>【西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事】          昨今の異常気象に伴う集中豪雨等の影響により緑ヶ丘地内の雨水浸水被害の発生を防止するため、過年度に設置した西鶴ヶ岡一丁目の雨水浸透槽の効果を見極めながら隔年で雨水浸透槽を設置する。なお、令和2年度の設置工事では、緊急自然災害防止対策事業債の事業計画を予定する。</p>
中長期的方向性	<p>【遊水池等監視カメラ設置】          市内の浸水危険の状況を見極めた上で、新たな監視カメラ設置箇所を検討する。</p>
拡充	